

## 卷末資料

### I 調查票

令和3年11月吉日

ファミリー・サポート・センター  
アドバイザー 各位

一般財団法人 女性労働協会  
会長 岩田 三代  
(公印省略)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における  
提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究  
「ファミリー・サポート・センターアンケート調査」に関するご協力のご依頼

皆様におかれましては、日頃より当協会事業にご理解、ご協力を賜り、誠に有難うございます。  
私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記の通り調査研究を行うこととなりました。

調査は、アドバイザー(センター)調査と会員調査(提供会員、両方会員、依頼会員)の計4種類を行います。具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等につきましては、別紙に記載しております。ご参照いただき、**令和3年11月30日(火)までに調査票をご返送**くださいますようお願い致します。

地域における子育て支援事業をより一層充実していくための大変貴重な資料となります。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

【添付資料】

(1) 別紙「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要

- ①アドバイザー調査用(本資料)
- ②提供会員調査用
- ③依頼会員調査用
- ④両方会員調査用 計4種

(2) アンケート調査票

- ①アドバイザー調査 各1部
- ②提供会員調査 特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10部  
上記以外のセンター：各5部
- ③依頼会員調査 特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10部  
上記以外のセンター：各5部
- ④両方会員調査 特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10部  
上記以外のセンター：各5部

(3) 調査票返信用封筒

以上

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園8階  
TEL: 03-3456-4410  
E-mail: w-women2a@jaaww.or.jp

## 「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における 提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要

### 1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査事業として計画されたものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上で、このアンケート調査にご協力いただければ幸いです。

この研究は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

### 2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し、他事業を補完する役割も担ってきました。しかし、近年、他の子育て支援事業が充実するにつれ、配慮が必要な家庭への対応等、ボランティアな「地域住民同士の支え合い」の活動範囲を超え、専門性や他機関との連携体制が求められる依頼も少なくありません。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や配慮の必要な子育て家庭への対応方法等の事業の課題について、本格的な調査を実施することで、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後の事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

### 3. 本研究（アンケート調査）の対象と調査方法

#### (1) 調査対象

##### ①アドバイザー（センター）調査

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を実施しているファミリー・サポート・センター（令和2年度子ども・子育て支援交付金ベース）のアドバイザー：956センター

##### ②会員調査（提供会員調査、依頼会員調査、両方会員調査）

上記センターに登録している会員（提供会員、依頼会員、両方会員）

- ・特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10人
- ・上記以外のセンター：各5人

- 過去3年間に活動実績のある会員様から、お送りした調査票と同じ人数（会員種別ごとに各10人または5人）の会員様に、回答へのご協力をお願いしてください。
- 両方会員については、依頼と提供の両方の活動実績のある方にご依頼ください。
- 該当者が10人または5人に満たない場合は、それでもかまいません。
- 回答いただく会員に、お送りした調査票をお渡しいただくようお願いいたします。
- ご依頼にあたっては、活動の状況が似通った方ばかりにならないようご配慮ください。

## (2) 調査方法

調査票にご記入いただき、返信用封筒に入れてポストに投函いただくか、パソコンから URL 入力、またはタブレット端末 (iPad など) やスマートフォンから QR コードでアクセスしていただき、Web 上のアンケートフォームからご回答ください。

### 【アンケート回答用 URL および QR コード】

	アンケート回答用 URL	アンケート回答用 QR コード
アドバイザー調査	<a href="https://forms.gle/mJEWpXgxSHZGPb4GA">https://forms.gle/mJEWpXgxSHZGPb4GA</a>	
提供会員調査	<a href="https://forms.gle/hEnhx5BoBtXuCuYW8">https://forms.gle/hEnhx5BoBtXuCuYW8</a>	
依頼会員調査	<a href="https://forms.gle/XnxPNaMySVQpFGfg8">https://forms.gle/XnxPNaMySVQpFGfg8</a>	
両方会員調査	<a href="https://forms.gle/9StBxhTTxbjJVDWP9">https://forms.gle/9StBxhTTxbjJVDWP9</a>	

(3) アンケート回答期限 **令和3年11月30日(火)**※いずれの調査・回答方法でも同じです。  
お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本調査では、センター名およびご担当者様 (アドバイザー) のお名前を伺います。これらは、調査に関する問い合わせを行う際に用います。また、提供会員、依頼会員、両方会員の調査票では、お名前は伺いませんが、それぞれの調査票が番号によって紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。さらに本調査で得られた結果及び情報管理については、先述した日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。回答の取りやめを行うこともできます。

#### 5. 本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
[rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp](mailto:rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp)

令和3年11月吉日

ファミリー・サポート・センター  
提供会員 各位

一般財団法人 女性労働協会  
会長 岩田 三代  
(公印省略)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における  
提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究  
「ファミリー・サポート・センターアンケート調査」に関するご協力のご依頼  
(提供会員調査)

皆様におかれましては、日頃より当協会事業にご理解、ご協力を賜り、誠に有難うございます。  
私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記の通り調査研究を行うこととなりました。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等、別紙に記載しております。ご参照いただき、**令和3年11月30日(火)までに調査票をご返送**くださいますようお願い致します。

地域における子育て支援事業をより一層充実していくための大変貴重な資料となります。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

記

【添付資料】

- (1) 別紙 「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要
- (2) アンケート調査票
- (3) 調査票返信用封筒

以上

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8階  
TEL : 03-3456-4410  
E-mail : w-women2a@jaaww.or.jp

## 「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における 提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要

### 1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査事業として計画されたものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上で、このアンケート調査にご協力いただければ幸いです。

この研究は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

### 2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や子育て家庭への対応方法等の事業の課題について、本格的な調査を実施することで、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後の事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

### 3. 提供会員調査の対象と調査方法

#### (1) 調査対象として選定された理由

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を実施しているファミリー・サポート・センターに登録している**提供会員**で、過去3年間に活動実績のある方のうち、活動の状況が似通った方ばかりにならないようセンターにお願いし、ご依頼いただきました。

- ・特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10人
- ・上記以外のセンター：各5人

#### (2) 調査方法

調査票にご記入いただき、返信用封筒に入れてポストに投函いただくか、パソコンからURL入力、またはタブレット端末(iPadなど)やスマートフォンからQRコードでアクセスしていただき、Web上のアンケートフォームからご回答ください。

#### 【アンケート回答用URLおよびQRコード】

	アンケート回答用URL	アンケート回答用QRコード
提供会員調査	<a href="https://forms.gle/hEnhx5BoBtXuCuYW8">https://forms.gle/hEnhx5BoBtXuCuYW8</a>	

- (3) アンケート回答期限】 **令和3年11月30日(火)** ※いずれの回答方法でも同じです。  
お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本調査では、お名前は伺いませんが、それぞれの調査票が番号によって紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。

また、ご記入いただきました調査票または回答フォームから送信いただきましたデータに関しては、女性労働協会の個人情報保護規程に則り厳重に管理・保管します。さらに本調査で得られた結果及び情報管理については、先述した日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて定められた基準に従い、適切に処理いたします。回答の取りやめを行うこともできます。

#### 5. 本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

令和3年11月吉日

ファミリー・サポート・センター  
依頼会員 各位

一般財団法人 女性労働協会  
会長 岩田 三代  
(公印省略)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における  
提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究  
「ファミリー・サポート・センターアンケート調査」に関するご協力のご依頼  
(依頼会員調査)

皆様におかれましては、日頃より当協会事業にご理解、ご協力を賜り、誠に有難うございます。  
私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記の通り調査研究を行うこととなりました。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等、別紙に記載しております。ご参照いただき、**令和3年11月30日(火)までに調査票をご返送**くださいますようお願い致します。

地域における子育て支援事業をより一層充実していくための大変貴重な資料となります。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

【添付資料】

- (1) 別紙 「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要
- (2) アンケート調査票
- (3) 調査票返信用封筒

以上

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8階  
TEL : 03-3456-4410  
E-mail : w-women2a@jaaww.or.jp

## 「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要

### 1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査事業として計画されたものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上で、このアンケート調査にご協力いただければ幸いです。

この研究は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

### 2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や子育て家庭への対応方法等の事業の課題について、本格的な調査を実施することで、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後の事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

### 3. 依頼会員調査の対象と調査方法

#### (1) 調査対象として選定された理由

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を実施しているファミリー・サポート・センターに登録している**依頼会員**で、過去3年間に活動実績のある方のうち、活動の状況が似通った方ばかりにならないようセンターにお願いし、ご依頼いただきました。

- ・特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10人
- ・上記以外のセンター：各5人

#### (2) 調査方法

調査票にご記入いただき、返信用封筒に入れてポストに投函いただくか、パソコンからURL入力、またはタブレット端末(iPadなど)やスマートフォンからQRコードでアクセスしていただき、Web上のアンケートフォームからご回答ください。

#### 【アンケート回答用URLおよびQRコード】

	アンケート回答用URL	アンケート回答用QRコード
依頼会員調査	<a href="https://forms.gle/XnxPNaMySVQpFGfg8">https://forms.gle/XnxPNaMySVQpFGfg8</a>	

**(3) アンケート回答期限】 令和3年11月30日(火)** ※いずれの回答方法でも同じです。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本調査では、お名前は伺いませんが、それぞれの調査票が番号によって紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。

また、ご記入いただきました調査票または回答フォームから送信いただきましたデータに関しては、女性労働協会の個人情報保護規程に則り厳重に管理・保管します。さらに本調査で得られた結果及び情報管理については、先述した日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。回答の取りやめを行うこともできます。

#### 5. 本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

令和3年11月吉日

ファミリー・サポート・センター  
両方会員 各位

一般財団法人 女性労働協会  
会長 岩田 三代  
(公印省略)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における  
提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究  
「ファミリー・サポート・センターアンケート調査」に関するご協力のご依頼  
(両方会員調査)

皆様におかれましては、日頃より当協会事業にご理解、ご協力を賜り、誠に有難うございます。  
私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記の通り調査研究を行うこととなりました。

具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等、別紙に記載しております。ご参照いただき、**令和3年11月30日(火)までに調査票をご返送**くださいますようお願い致します。

地域における子育て支援事業をより一層充実していくための大変貴重な資料となります。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

【添付資料】

- (1) 別紙 「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要
- (2) アンケート調査票
- (3) 調査票返信用封筒

以上

【お問合せ先】

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8階  
TEL : 03-3456-4410  
E-mail : w-women2a@jaaww.or.jp

**「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査概要**

### 1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本研究事業は、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査事業として計画されたものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上で、このアンケート調査にご協力いただければ幸いです。

この研究は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

### 2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や子育て家庭への対応方法等の事業の課題について、本格的な調査を実施することで、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後の事業の充実に寄与する成果としたいと考えています。

### 3. 両方会員調査の対象と調査方法

#### (1) 調査対象として選定された理由

子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）を実施しているファミリー・サポート・センターに登録している**両方会員**で、過去3年間に活動実績のある方のうち、活動の状況が似通った方ばかりにならないようセンターにお願いし、ご依頼いただきました。

- ・特別区、政令指定都市、中核市のセンター：各10人
- ・上記以外のセンター：各5人

#### (2) 調査方法

調査票にご記入いただき、返信用封筒に入れてポストに投函いただくか、パソコンからURL入力、またはタブレット端末(iPadなど)やスマートフォンからQRコードでアクセスしていただき、Web上のアンケートフォームからご回答ください。

#### 【アンケート回答用URLおよびQRコード】

	アンケート回答用 URL	アンケート回答用 QR コード
両方会員調査	<a href="https://forms.gle/9StBxhTTxbjJVDWP9">https://forms.gle/9StBxhTTxbjJVDWP9</a>	

#### (3) アンケート回答期限】 **令和3年11月30日(火)** ※いずれの回答方法でも同じです。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、ご協力くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本調査では、お名前は伺いませんが、それぞれの調査票が番号によって紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。

また、ご記入いただきました調査票または回答フォームから送信いただきましたデータに関しては、女性労働協会の個人情報保護規程に則り厳重に管理・保管します。さらに本調査で得られた結果及び情報管理については、先述した日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて定められた基準に従い、適切に処理いたします。回答の取りやめを行うこともできます。

#### 5. 本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員  
の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査  
アドバイザー向け調査票

《記入にあたってのお願い》

【調査への同意】調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなたが不利益を被ることはありません。本調査への回答および用紙の提出によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。

【個人情報について】本調査票では、番号によって、アドバイザー調査と、その他の会員調査と紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。また以下の記名は、問い合わせをする場合のみ使用します。本調査で得られた結果及び情報管理については、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。また、以下の返送先に連絡することによって、回答の取りやめを行うこともできます。

【調査時期】特にことわりのない限り、令和2年度末(令和3年3月31日現在)の状況についてお答えください。

【記入方法】該当する番号に○をつけ、□及び( )に必要な事項をご記入ください。

【返送方法】ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、11月30日(火)までにポストへ投函してください。

【本調査についてご質問等の窓口】

〒105-0014 東京都港区芝2-27-8 VORT芝公園 8F  
一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
TEL:03-3456-4410 FAX:03-3456-4420  
w-women2a@jaaww.or.jp

【本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口】

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

※QRコードより回答フォームを使えば、ネット回答できます。



【センター概要】(所在地、自治体所管部署課名等、省略せずにご記載ください)

センター名	
センター所在地	〒 ( ) - ( ) TEL ( ) - ( ) - ( ) FAX ( ) - ( ) - ( )
設置自治体 所管部署課名	
記入者名	氏名 所属 TEL ( ) - ( ) - ( )

## 1. 提供会員の確保について

(問1-1) 依頼会員数に対して提供会員数が不足していますか。

1	不足している	<input type="radio"/>
2	どちらかといえば不足している	<input type="radio"/>
3	どちらともいえない	
4	どちらかといえば足りている	
5	足りている	

(問1-2) (問1-1)で、「1 不足している」「2 どちらかといえば不足している」と答えた方にお聞きします。そのように答えた理由を教えてください。(複数回答)

1	依頼件数に対応する提供会員の数が少ない地域があるから(会員数の地域的偏在)
2	依頼内容に対応する提供会員が少ない地域があるから(依頼の質の地域的偏在)
3	両方会員の割合を増やしたいから
4	子育て世代のファミサポへの参加を促したいから
5	子育て世代以外のファミサポへの参加を促したいから
6	困難家庭に対応できる提供会員が少ないから
7	1人の(限られた)提供会員が多くかけもつ状況を解消したいから
8	将来的に提供会員が不足しそうだから(世代交代)
9	会員間のマッチング(依頼会員の要求に合う提供会員がいない)
10	送迎の時間帯に依頼が偏るから
11	早朝・夜間等に対応できる会員が必要だから
12	補助金に影響があるから

(問1-3) 提供会員を増やすために、会員の対象を広げたり、会員の切り替え等を行ったりしていますか。行っている内容として、次に掲げるAからFのうち、あてはまる番号すべてに○をつけてください。また、行っている内容の効果について、番号に○をつけてください。

		とても効果があつた	ある程度効果があつた	あまり効果がなかった	まったく効果がなかった
A. 子育てを終えた依頼会員が、その後、提供会員に登録するような仕組みとなっている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
B. 依頼会員に、両方会員になってもらうよう働きかけなどを行っている。(子どもが大きくなった後も含む)	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
C. 提供会員の配偶者も会員登録をしてもらい、ご夫婦ともに提供会員になってもらうようにしている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
D. 学生など、若い世代にも対象を広げている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				

		とても 効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	まったく 効果が なかった
E. 男性向けにチラシを作成するなど、男性会員の獲得に力を入れている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
F. 送迎に特化した協力・両方会員の開設などの工夫を行っている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
G. 「子育て支援員研修修了者」など他の子育てボランティアやサポーターの養成講座修了者へ働きかけている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
H. 子育てを終えた方々や、主任児童員等に、個別に声掛けしている。	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				

(問 1 - 4) 提供会員確保のための工夫のために行っている内容として、次に掲げるAからOのうち、あてはまる番号すべてに○をつけてください。また、行っている内容の効果について、あてはまる程度をお答えください(効果の○は、それぞれにつき1つ)。

		とても 効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	まったく 効果が なかった
<b>A.市の広報に掲載</b> ＜内容＞事業内容、提供会員養成講座の案内、会員募集ファミサポ特集、広報のためのイベント、活動風景写真等、市の行政チャンネルにて、広報番組を放送	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>B. 町内会、地域での広報</b> ・市町村内回覧板での広報(チラシ、パンフレット、会報誌 等) ・市町村内掲示板、駅構内掲示板、地下鉄通路(ポスターの掲示)	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>C.公共施設や公的な行事での広報</b> <b>コミュニティーバス、循環バス(シティバス)への掲示</b> チラシ、パンフレット、リーフレットの配布、ポスターの掲示(保育園、幼稚園等、保健センター、健診時等病院、コミュニティセンター、公民館、児童館・図書館・子育てひろば・子育て支援センター・保健センター等) <b>転入・出産の届出時に説明</b> <b>出張登録会、説明会の実施</b> (地域子育て支援拠点(支援センター)等へ出張、障がい児家族会等へ出張) <b>地域のまつり等でのパネル展やチラシ配布</b> (・公民館まつりに参加し子どもの遊び場提供と啓発活動・福祉まつり、市民活動フェスタ(展示、PR)への参加)	1 行っている	1	2	3	4
	2 行っていない				

			とても 効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	まったく 効果が なかった
<b>D. 民間施設での広報(商業施設等)</b> チラシ配布(スーパーマーケット、ドラッグストア等) ポスター掲示(・商業施設、銀行、スーパーマーケット、公衆浴場、市内マンション等)	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				
<b>E. ホームページ、SNS</b> ・市のHP等にファミサポのページを新設 ・HP等に研修会の日程掲載 ・担当課のSNSにファミサポの行事を掲載等	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				
<b>F. ラジオ、テレビ等</b> テレビ・ケーブルテレビの放映(ファミサポ紹介番組の放送、ニュース番組の取材) ・ケーブルテレビ経由でのメール配信 ラジオ・地域のFMラジオでのPR・番組出演 その他・ネット配信、新聞の地方版に講座募集の記事を掲載	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				
<b>G. 口コミ</b> ・サブリーダーからの口コミ ・現依頼・提供会員からの紹介 ・友人・知人への声掛け	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				
<b>H. 子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知</b> 子育て関連施設、イベント時にチラシ、パンフレットを配布、ファミサポの事業説明 ・地区の子育て担当者会議に出席 ・子育てひろばや子育て講座にて出張PR ・子育て支援センター、子育てサロンにて説明 ・子育て関連施設と連携 ・保健師と連携(赤ちゃん訪問事業、健診時等に説明) ・他事業との連携(養育支援訪問事業、子育て家庭相談事業等) ・乳幼児学級、マタニティ教室、新生児等のママ対象学級、両親学級等にて説明 ・毎月子育て相談や親子のふれあい遊びなどイベント実施 ・母子手帳配布時にカードサイズの案内配布 ・自治体の子育てガイドブックに掲載 ・家庭児童相談室からの案内(相談同行) ・孫育て講座でのファミサポの事業紹介 ・子育て支援の講演会にてファミサポデスクを設置、その場で入会受付	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				

		とても 効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	まったく 効果が なかった
<b>I. ボランティア活動の従事者等への働きかけ</b> <b>ボランティア活動の従事者、子育て支援に興味のある方、地域活動やボランティア活動への意識の高い方への働きかけ</b> ・社協行事(ボランティア入門講座、ボランティアリーダー研修等)での事業説明 ・ボランティアセンター・組織での周知(ポスター掲示、マガジンでの事業周知) ・ボランティアセンターと共催で「子育て支援スタッフ講座」の開催 ・ボランティア活動従事者(愛護委員、放課後子ども教室等)へ声掛け、チラシ配布 ・ボランティア情報誌に会員募集について掲載	1 行っている →	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>J. シニア層への働きかけ</b> <b>周知(事業募集、会員募集)</b> ・シルバー元気塾参加者に対して資料配布、事業説明 ・退職後世代の団体への周知、依頼 ・シニア大学受講生に対して事業紹介 ・高齢者サークルにて登録会の説明 ・保育園、幼稚園等の祖父母向け参観でのPR <b>チラシ、リーフレット、ポスターの配布</b> ・シルバー人材センターへポスター掲示 ・シニア世代向けのイベント、学習会等 ・シニア世代を対象とした公民館講座でのチラシ配布	1 行っている →	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>K. 民生委員等への事業募集、会員募集の働きかけ</b> ・地域の集まり(自治会会合等)に参加 ・民生委員会議等で委員へ事業説明、周知 ・民生委員からの情報収集 ・児童委員 等	1 行っている →	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>L. 保育園・幼稚園・認定こども園・児童館・小中学校保護者への働きかけ</b> ・チラシ、パンフレットを配布 ・学童(学童ルーム入所決定通知にリーフレットを同封)、児童館 ・児童クラブ入会式で送迎協力者等募集 ・PTAにチラシの配布	1 行っている →	1	2	3	4
	2 行っていない				
<b>M. 現在の会員への登録依頼の働きかけ</b> ・事前打合せ時に案内チラシを渡し、依頼会員から両方会員への変更依頼 ・両方会員募集を中心にチラシ作成 ・近況調査を行い、子育てを終えた依頼会員・両方会員に提供会員への変更依頼	1 行っている →	1	2	3	4
	2 行っていない				

			とても 効果が あった	ある程度 効果が あった	あまり 効果が なかった	まったく 効果が なかった
<b>N. 講習における工夫</b> ・提供会員養成講習会の回数増加、会場の分散 ・会場を外部施設にして多くの人数が参加しやすくした ・託児付き講座の開催 ・講習会より前に「提供会員希望者向け説明会」を開催	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				
<b>O. 講習会・交流会の工夫</b> <b>講習会の一般公開</b> ・子育て支援に関心のある一般市民の参加を募る ・講習会、交流会に会員以外の一般市民にも参加を呼びかけ、事業の周知を図っている <b>会員以外の人参加可能な交流会の開催</b> ・交流会の参加者を会員以外にも広げ、入会につなげる ・会員同士の交流会を実施し、その際会員の方に友人を連れて来てもらう <b>交流会の開催による親睦</b> ・会員間、アドバイザーと会員の距離を縮め、良好な関係の中から情報収集 ・交流会を開催し、会員同士の声を聞く	1	行っている →	1	2	3	4
	2	行っていない				

(問1-5) 提供会員とのコミュニケーションを図るためにどのようなことを行っていますか。次に掲げるAからIのうち、あてはまる番号すべてに○をつけてください。行っている場合は、年間回数をお答えください。年間回数は、概数で可。

			年間 回数
A. 提供会員同士の茶話会(飲食は含まなくともおしゃべりだけでも可)	1	行っている →	回
	2	行っていない	
B. 提供会員・依頼会員混合の茶話会(飲食は含まなくともおしゃべりだけでも可)	1	行っている →	回
	2	行っていない	
C. 提供会員同士のイベント型の交流会(バルーンアートなど)	1	行っている →	回
	2	行っていない	
D. 提供会員・依頼会員混合のイベント型の交流会(バルーンアートなど)	1	行っている →	回
	2	行っていない	
E. 提供会員に向けたフォローアップ研修	1	行っている →	回
	2	行っていない	
F. 提供会員・依頼会員混合のフォローアップ・子育て研修	1	行っている →	回
	2	行っていない	
G. 直接的な活動依頼 <u>以外</u> の提供会員への個別電話	1	行っている →	回
	2	行っていない	

			年間 回数
H. 活動のない提供会員への個別電話でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のヒアリング等）	1	行っている	回
	2	行っていない	
I. 活動のない提供会員への個別の郵送物（広報含む）でのフォロー（交流会・研修へのお誘いや、状況変化のおたずね等）	1	行っている	回
	2	行っていない	

※電話の回数は、個別への働きかけで、会員1名にかけた場合、1回と数えてください。

※郵送物の回数は、個別への働きかけで、会員1名に発送した場合、1回と数えてください。

## 2. 多様な背景や考えをもった家庭への関わりと他機関との連携について

（問2-1）多様な背景をもった家庭への関わりについて、次に掲げるAからZのうち、事業の対象者となったもの、およびその頻度（件数）に○をつけてください（すべてに○を）。

	よめる (週に 数件程度)	ときどきある (月に 数件程度)	たまにある (半年に 数回程度)	おおいにある (年に 数件程度)	全くない
A. 病児・病後の子ども	1	2	3	4	5
B. 発達遅れや障がいがある子ども	1	2	3	4	5
C. 医療的ケアが必要な子ども	1	2	3	4	5
D. エピペン（アドレナリン自己注射）を処方された子ども	1	2	3	4	5
E. アレルギーのある子ども（Dも含む）	1	2	3	4	5
F. 外国籍家庭	1	2	3	4	5
G. 経済的に困窮している家庭	1	2	3	4	5
H. 生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭	1	2	3	4	5
I. 親が精神的な疾患のある家庭	1	2	3	4	5
J. 親が障がい者の家庭	1	2	3	4	5
K. ひとり親家庭	1	2	3	4	5
L. 高齢出産の家庭	1	2	3	4	5
M. 多胎育児家庭	1	2	3	4	5
N. 若年出産の家庭	1	2	3	4	5
O. 避難してきた（している）家庭	1	2	3	4	5
P. 子育てと介護をしている家庭	1	2	3	4	5
Q. DVあるいはその予備軍の家庭	1	2	3	4	5
R. 虐待あるいはその予備軍の家庭（ネグレクト・身体への虐待等）	1	2	3	4	5
S. 転勤・転居してきたばかりの家庭	1	2	3	4	5
T. 親が妊娠中の家庭	1	2	3	4	5
U. ファミサポへ過度に依存する家庭	1	2	3	4	5
V. 複雑な家族構成の家庭	1	2	3	4	5
W. 複合的に多くの問題を抱えた家庭	1	2	3	4	5

	よめる (週に 数件程度)	ときどきある (月に 数件程度)	たまにある (半年に 数回程度)	まじにある (年に 数件程度)	全くない
X. 提供会員へのハラスメントやパワハラ 傾向のある家庭	1	2	3	4	5
Y. 安価なベビーシッターや安価なタクシ ー代わりに頻回利用している家庭	1	2	3	4	5
Z. お稽古事や習い事が多すぎる家庭	1	2	3	4	5

(問 2-2) 貴センターは、市町村の要保護児童対策地域協議会に加盟していますか (○を1つ)。

1	加盟している
2	加盟していない

(問 2-3) 他機関との連携としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけ、その内容をご記入ください。

	事業の周 知・広報(チ ラノ掲示等)	虐待や困難 ケース等の 相談	講習会の開 催・講師依 頼	情報の共有	活動場所 の提供	ファミサポ が併設	連携して いない
A. 市町村・行政所管課 (家庭児童相談室等含む)	1	2	3	4	5	6	7
B. 子育て支援センター	1	2	3	4	5	6	7
C. 保育所・幼稚園等 (小規模保育なども含む)	1	2	3	4	5	6	7
D. 近隣のファミリー・サポート・センター	1	2	3	4	5	6	7
E. 放課後児童クラブ/学童	1	2	3	4	5	6	7
F. 民生・児童委員/主任児童委員	1	2	3	4	5	6	7
G. 社会福祉協議会等	1	2	3	4	5	6	7
H. 消防署/日本赤十字社 関連機関	1	2	3	4	5	6	7
I. 地域子育て支援拠点事業	1	2	3	4	5	6	7
J. 保健所/市町村保健 センター/市の保健師等	1	2	3	4	5	6	7
K. 子育て支援団体・グループ等	1	2	3	4	5	6	7
L. 学校(小・中・高・大・短・ 専門・特支)	1	2	3	4	5	6	7
M. 地域子育て支援に 関する連絡会	1	2	3	4	5	6	7
N. 公民館・図書館・市民 大学等の社会教育施設	1	2	3	4	5	6	7
O. 児童館	1	2	3	4	5	6	7
P. 医療機関	1	2	3	4	5	6	7

	事業の周知・広報(チラシ・掲示等)	虐待や困難ケース等の相談	講習会の開催・講師依頼	情報の共有	活動場所の提供	ファミサポが併設	連携していない
Q.町内会・自治会	1	2	3	4	5	6	7
R.児童相談所	1	2	3	4	5	6	7
S.警察	1	2	3	4	5	6	7
T.公共職業安定所(ハローワーク・マザーズジョブ等)	1	2	3	4	5	6	7
U.児童福祉施設(乳児院/児童養護施設等)	1	2	3	4	5	6	7
V.子育て世代包括支援センター	1	2	3	4	5	6	7
W.要保護児童対策地域協議会	1	2	3	4	5	6	7
X.市区町村子ども家庭総合支援拠点	1	2	3	4	5	6	7
Y.障害のある子どもの施設・相談機関(児童発達支援センター/放課後デイ/療育施設等)	1	2	3	4	5	6	7
Z.ひとり親に関する施設・相談機関(母子寡婦福祉連合会・母子生活支援施設等)	1	2	3	4	5	6	7
イ.ISSWなどの学校教員以外の相談機関(学校の地域コーディネーター等)	1	2	3	4	5	6	7
ロ.シルバー人材センター	1	2	3	4	5	6	7
ハ.里親	1	2	3	4	5	6	7
ニ.子ども食堂	1	2	3	4	5	6	7

### 3. 利用支援について

(問3-1) 貴センターでは、ひとり親家庭等のファミリー・サポート・センター(病児・病後児の預かり等を含む)の利用支援を行っていますか？

1	ひとり親家庭等の利用支援を行っている	● → 問3-2へ
2	ひとり親家庭等の利用支援を行っていない	● → 問3-3へ

(問3-2) (問3-1)で「1. 利用支援を行っている」と回答された方におたずねします。

ひとり親家庭等のファミリー・サポート・センター(病児・病後児の預かり等を含む)の利用支援として、貴センターで行っている内容について、あてはまる番号全てに○をつけてください。

1	ひとり親家庭等がセンターを利用する場合、援助を行いたい会員を優先して調整している
2	ひとり親家庭等がセンターを利用する場合、提供会員の活動時間の制限をなくし、早朝、夜間、宿泊、休日の受け入れなどに柔軟に対応している
3	ファミリー・サポート・センターを利用する、ひとり親家庭等の受入れに対する援助を行いたい会員への助成を行っている

4	ひとり親家庭等がセンターを利用する場合、利用料金の補助を行っている
5	その他 ( )

(問3-3) 依頼会員がファミリー・サポート・センターを利用するあたり、自治体から利用料金の補助はありますか？(保険料は除く)

1	利用補助がある	→ 問3-4へ
2	利用補助はない	→ 問3-5へ

(問3-4) (問3-3)で「1. 利用補助がある」と回答した方におたずねします。

誰が対象でどの程度の補助を行なっていますか？対象についてあてはまる番号全てに○をつけ、補助割合についてもあてはまる項目全てについてお答えください。

対象となる依頼会員		利用料金の補助割合 ※①～④から1つ選んでください。			
		①全額	②半額	③固定額	④金額制限
1	ひとり親家庭(母子家庭及び父子家庭)	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
2	母子家庭のみ	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
3	父子家庭のみ	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
4	生活保護世帯、市町村 民税非課税世帯等	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
5	ダブルケア負担の世帯 (育児と親等の介護を同時 に行っている世帯)	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
6	市区町村在住者及び 通勤者	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
7	在住者のみ	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
8	通勤者のみ	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで
9	その他 ( )	利用料金の全額	利用料金の半額	固定額：1回につき ( )円	毎月・年間に ( )円まで

(問3-5) 地域の子育て支援サービスに利用できる、自治体等が発行する「子育て応援券」等がありますか？ある場合、ファミリー・サポート・センターで利用することはできますか？

1	子育て応援券等を自治体が発行しており、ファミリー・サポート・センターでも利用できる
2	子育て応援券等を自治体が発行しているが、ファミリー・サポート・センターでは利用できない
3	子育て応援券等を自治体で発行していない

#### 4. 提供会員を対象とした講習の実施について

(問4-1) 国から提示された講習項目・時間数(9項目・24時間)すべてを満たした講習会を令和2年度に実施しましたか。あてはまるものに○をつけてください。

1	実施した
2	実施しなかった

(問4-2) 9項目・24時間の講習を実施することについて、次に掲げるAからFについてどのように思いますか。あてはまるものに○をつけてください。

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも いえない	どちらかといえ ばそう思わない	そうは思わない
A. 講習時間を増やすと提供会員が集まらない	1	2	3	4	5
B. 提供会員に今以上の負担をかけたくない	1	2	3	4	5
C. 専門分野の講師が見つからない	1	2	3	4	5
D. 講習を開催する予算が足りない	1	2	3	4	5
E. センターとして、現在の講習を増やす必要性を感じない	1	2	3	4	5
F. 自治体担当者の理解が得られない	1	2	3	4	5

(問4-3) 貴センターにおける、令和2年度緊急救命講習の実施状況を教えてください。

1	1回あたりの時間数	( )時間/回
2	年間の開催回数の合計	( )回/年
3	実施していない	

(問4-4) 緊急救命講習の提供会員の受講割合について、令和2年度の実績を教えてください。(概数でも可)

( )%

(問4-5) 貴センターで、以下の活動に制限をかけたり、実施しなかったりしていますか。次に掲げるAからIについて、あてはまるものに○をつけてください。

対象となる活動内容	制限する	実施しない	制限せず実施
A. 宿泊を伴う預かり	1	2	3
B. 早朝・夜間等の緊急預かり	1	2	3
C. 病児・病後児など、体調不良児の預かり	1	2	3
D. 複数の子どもの預かり	1	2	3
E. 自家用車による送迎	1	2	3
F. 自転車による送迎	1	2	3
G. 食事の提供	1	2	3
H. 乳児の預かり	1	2	3
I. 入浴補助	1	2	3
J. 習い事の送迎	1	2	3

## 5. 提供会員の確保の方策案について思うこと

(問5) ファミリー・サポート・センター事業の提供会員の確保の方策についてアイデアがありましたらご記入ください。

## 6. アドバイザー業務の機能について

(問6) あなたが考えるアドバイザー業務の機能として、あてはまるものすべてに○をつけてください。

		よく あてはまる	まあまあ あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
A. 相談援助 機能	対等な関係性のもとに、利用会員・提供会員と共に問題解決に取り組み、協働するための役割(カウンセラーやセラピストの役割も含む)。子育て相談や助言を行う。	1	2	3	4	5
B. 連携機能	各種の公的な社会的サービスや多くのインフォーマルな社会資源の間を結びつける連携者としての役割。他専門機関との連携、調整、ネットワーク形成などを行う。	1	2	3	4	5
C. 側面的支 援機能	利用会員が主体的に子育てに取り組めるように側面的に援助する役割。	1	2	3	4	5
D. 管理・運営 機能	センターで目的達成のために方針や計画を示し、組織が適切に機能するための維持・調整・管理の役割。アドバイザーがセンターの運営管理、会員同士の調整を行う。	1	2	3	4	5
E. 教育機能	利用会員や提供会員に情報提供をしたり、新たなスキルを提供したり、学習する場を提供する役割。各種の情報提供や子育て・保育に関するスキル学習を行う。	1	2	3	4	5
F. 交流支援・ 組織化機能	フォーマル、インフォーマルな活動や団体を組織する役割。会員同士をつないだり、他の子育てサークル等の支援を行ったりする。	1	2	3	4	5
G. 早期発見 機能	虐待に限らずさまざまな保護者の生活困難を発見する役割。	1	2	3	4	5
H. ケースマネ ージャー機能	個人や家族へのサービスの継続性、適切なサービスの提供などのケースマネージャーとしての役割。利用会員に適切な社会資源を結び付けたり、組み合わせたり、他専門機関との連絡・調整を行う。	1	2	3	4	5
I. 仲介機能	利用会員と社会資源(提供会員)の仲介者としての役割。ケースによっては、利用会員に必要な専門機関を紹介するとともに、専門機関との連絡や調整を行う。	1	2	3	4	5
J. 調停機能	利用会員と提供会員(あるいは地域社会)との間で意見の食い違いや争いが見られるとき、その調停者としての役割。会員間の調整を行う。	1	2	3	4	5

		よく あてはまる	まあまあ あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
K.スーパー ビジョン機能	提供会員の適切なサービス提供を可能にする支援、提供会員の力量向上のための支援を行う役割。提供会員への指導・研修を行う。	1	2	3	4	5
L.調査・ 計画機能	地域のニーズやサービスの整備状況を把握し、その整備などを計画的に進める役割。地域の子育てニーズの調査・把握をする。また、地域の資源の掘り起こしや地域住民の参加の促進、提供会員育成を行う。	1	2	3	4	5
M.代弁機能	ニーズを自ら表明できない子どもや利用会員の代弁者としての役割。利用会員に対する子どもの代弁・権利擁護(虐待対応含む)や、地域の保育ニーズへ対応するために利用会員を代弁する。	1	2	3	4	5
N.保護機能	生活上に深刻な問題を抱え、生命の危機的状況にあるような状態にある親子に対して、安全な環境を確保する役割。児童虐待からの保護などを行う。	1	2	3	4	5
O.社会変革 機能	地域の偏見・差別などの意識、硬直化した制度などの変革を行う社会改良・環境の改善を働きかける役割。子育てしやすい地域や社会をつくるためのソーシャルアクション。	1	2	3	4	5

出典「保育ソーシャルワーク機能／生活困難に対応するための業務の機能と分類項目」関川芳孝・鶴宏史・中谷奈津子編著『保育所等の子ども家庭支援の実態と展望—困難家庭を支えるための組織的アプローチの提案—』80頁よりファミサポ事業に関わる可能性がある部分の文言を修正して引用。

## 7. センターの概要について

(問7-1) センターの運営方法についてあてはまる番号を選んでください。委託又は補助を行っている場合、委託先又は補助先の団体についてもお答えください。

1	市区町村の直営	→	(委託先又は補助先の団体)	
2	市区町村からの委託		1	社会福祉協議会
3	市区町村からの補助		2	公益/一般法人(財団法人、社団法人)
			3	NPO法人
			4	民間企業(有限会社、株式会社等)
			5	その他( )

(問7-2) 支部を設置していますか？

1	設置していない	→	箇所
2	設置している		

(問 7-3) 広域連携を実施していますか？

1	実施していない
2	実施している

(問 7-4) 会員数と会員の年齢構成を教えてください。また、そのうち男性会員の会員数と年齢構成もお答えください。(令和3年3月31日現在)

	年齢構成	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
1	提供会員	人	人	人	人	人	人	人
	(うち男性)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
2	依頼会員	人	人	人	人	人	人	人
	(うち男性)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
3	両方会員	人	人	人	人	人	人	人
	(うち男性)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)

(問 7-5) コロナ前の直近5年間(平成26年度と令和元年度)の提供会員の増減について教えてください。

提供会員数の増減		
A. 平成26年度の提供会員数 (平成27年3月31日時点)	B. 令和元年度の提供会員数 (令和2年3月31日時点)	増減率(B÷A)
人	人	%

(問 7-6) 令和元年度(コロナ前)の会員の活動割合(1年間で1度でも利用(提供)したことのある会員割合)を教えてください。(概数でも可)(提供した提供会員/提供会員合計、利用した依頼会員/依頼会員合計)

提供会員	依頼会員
%	%

(問 7-7) 令和2年度(コロナ後)の会員の活動割合(1年間で1度でも利用(提供)したことのある会員割合)を教えてください。(概数でも可)(提供した提供会員/提供会員合計、利用した依頼会員/依頼会員合計)

提供会員	依頼会員
%	%

(問 7-8) 貴センターの令和2年度の内容別年間活動件数について教えてください。

《記入上の注意》

※令和2年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)の活動件数をご記入ください。

※件数が0の時は未記入にせず、「0」とご記入ください。

※下記の項目が貴センターで集計している項目名と異なる場合は、お手数ですが、類似していると考えられる項目に件数を足してご記入ください。

	活動項目	件数
1	保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり	件
2	保育施設までの送迎	件
3	放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	件
4	学校の放課後の子どもの預かり	件
5	冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	件
6	買い物等外出の際の子どもの預かり	件
7	保護者の就労(短期・臨時・求職活動等)の場合の預かり・送迎など	件

活動項目		件数
8	保護者の病気、急用等の場合の預かり・送迎など	件
9	障がいを持つ子どもの預かり・送迎など	件
10	学校、幼稚園、保育所の休みのときの預かり・送迎など	件
11	学校の放課後の学習塾や習い事等までの送迎	件
12	病児・病後児の預かり	件
13	病児・病後児保育施設等への送迎	件
14	早朝・夜間等の緊急時の預かり	件
15	宿泊を伴う子どもの預かり	件
16	放課後児童クラブ開始前の預かり・送迎など	件
17	産前・産後の育児援助等	件
18	保護者のリフレッシュ・習い事等の預かり	件
19	その他 具体的に	件
令和2年度年間活動件数総計		件

## 8. センターの人員体制について

(問8-1) 貴センターに関わる人数体制をお答えください(常勤・非常勤含む)。

区分		総数	うち女性
1	自治体担当の役職者(施設長、課長、部長等)	人	人
2	委託先(社会福祉法人、NPO等)の役職者(課長、部長、理事、代表等)	人	人
3	アドバイザー(コーディネーター等の調整役を含む)	人	人
4	サブリーダー	人	人
5	上記以外のスタッフ	人	人
合計		人	人

(問8-2) アドバイザーの雇用形態についてお答えください。アドバイザーが複数いる場合は、それぞれの方の形態をお答えください。

1	市区町村の正職員	人
2	市区町村の嘱託職員(有期雇用)	人
3	市区町村のパートタイム・アルバイト	人
4	委託先(社会福祉協議会、NPO法人等)の正職員	人
5	委託先(社会福祉協議会、NPO法人等)の嘱託職員(有期雇用)	人
6	委託先(社会福祉協議会、NPO法人等)のパートタイム・アルバイト	人

(問8-3) アドバイザーの任期はありますか。任期がある場合、期間をお答えください。

1	任期はない	→	(任期)	
2	任期がある		1	1年
			2	2年
			3	3年
			4	4年以上

(問8-4) アドバイザーの資格等の要件を設けていますか？

1	設けている	→ 問8-5へ
2	いない	→ 問8-6へ

(問8-5) 問8-4で、アドバイザーの資格等の要件を「設けている」と回答した方におうかがいします。  
具体的にどのような資格でしょうか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	保育士	5	精神保健福祉士
2	看護師	6	ホームヘルパー
3	教育職員免許	7	元・提供会員
4	社会福祉士	8	上記以外の資格

(問8-6) 令和2年度、アドバイザーを対象とした研修を受ける機会はありましたか？

1	研修の機会があり、受講した
2	研修の機会があったが、受講しなかった
3	研修の機会はなかった

## 9. 会員登録時のルールについて

(問9-1) 依頼・提供会員の年齢制限を設けていますか？年齢制限を設けている場合、具体的な内容をお答えください。

提供会員	1	ある	( ) 歳から ( ) 歳まで	2	ない
依頼会員	1	ある	( ) 歳から ( ) 歳まで	2	ない

(問9-2) 依頼・提供会員の登録に関し、身分を証明する書類の提出を求めていますか？  
それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

書類の種類	提供会員	依頼会員
運転免許証	1	1
住民票	2	2
健康保険証	3	3
上記以外の身分を証明する書類	4	4
提出を求めている	5	5

(問9-3) 依頼・提供会員の登録に関し、一定期間で更新を行っていますか？

	提供会員	依頼会員
更新している	1	1
更新していない	2	2

質問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて 11月30日(火)までに、女性労働協会へご返送ください(当日消印有効)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員  
の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査  
提供会員向け調査票

《記入にあたってのお願い》

**【調査への同意】**調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなたが不利益を被ることはありません。本調査への回答および用紙の提出によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。

**【個人情報について】**本調査票では、番号によって、アドバイザー調査と、その他の会員調査と紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。また以下の記名は、問い合わせをする場合のみ使用します。本調査で得られた結果及び情報管理については、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。また、以下の返送先に連絡することによって、回答の取りやめを行うこともできます。

**【調査時期】**特にことわりのない限り、令和2年度末(令和3年3月31日現在)の状況についてお答えください。

**【記入方法】**該当する番号に○をつけ、□及び( )に必要事項をご記入ください。

**【返送方法】**ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、11月30日(火)までにポストへ投函してください。

**【本調査についてご質問等の窓口】**

〒105-0014 東京都港区芝2-27-8 VORT芝公園 8F  
一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
TEL:03-3456-4410 FAX:03-3456-4420  
w-women2a@jaaww.or.jp

**【本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口】**

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

※QRコードより回答フォームを  
使えば、ネット回答できます。



1. ファミリー・サポート・センター事業の認知経路、動機付けについて

(問1-1) ファミサポを知ったきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	市の広報
2	町内会、地域での広報
3	ホームページ、SNS
4	ラジオ、テレビ等
5	口コミ
6	公共施設や公的な行事での広報
7	民間施設での広報(商業施設等)
8	ボランティア活動を通じての広報
9	子育て関連施設、子育てイベント、会議等での周知
10	民生委員からの情報提供

(問1-2) 提供会員になった動機について、以下すべての項目の「あてはまる」～「あてはまらない」で該当する番号1～5に○をつけてください。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
A	楽しそう、子どもが好きだから	1	2	3	4	5
B	困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから	1	2	3	4	5
C	多くの人と知り合いたい、新しい人と出会いたいから	1	2	3	4	5
D	活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから	1	2	3	4	5
E	地域や社会に恩返しをしたいから	1	2	3	4	5
F	生きがいになるものがほしかったから	1	2	3	4	5
G	子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	1	2	3	4	5
H	市の公的な事業だから	1	2	3	4	5
I	人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから	1	2	3	4	5
J	家族、友人、職場などから評価される、認められるから	1	2	3	4	5
K	持っている資格を活かしたいから	1	2	3	4	5
L	時間に余裕ができたから	1	2	3	4	5
M	収入になるから	1	2	3	4	5
N	地域や社会のことを知りたいから	1	2	3	4	5
O	別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	1	2	3	4	5
P	就労へのステップとしたいから	1	2	3	4	5
Q	友人や周りの人に頼まれたから	1	2	3	4	5
R	自分の視野を広げたいから	1	2	3	4	5
S	子育て経験が活かせるから	1	2	3	4	5
T	孫のような存在が身近に欲しかったから	1	2	3	4	5
U	児童虐待や子育ての孤立化など、社会問題の解決に役立ちたいから	1	2	3	4	5
V	仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	1	2	3	4	5

(問1-3) ファミサポの提供会員となったことで得たものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	依頼会員に信頼され、やりがいを感じる
2	社会の役に立っていることが実感できる
3	社会参加ができる
4	地域に新しい知り合いができる
5	自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい
6	援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある
7	育児に関する知識や技術を身につけることができる
8	育児の経験を生かすことができる
9	援助費をもらえる
10	特に得たものはない

## 2. 多様な背景や考えをもった家庭への関わりについて

(問2-1) 次に掲げる、多様な背景や考えをもつ家庭への援助活動を行ったことがありますか(あてはまるものすべてに○)。

1	病児・病後の子ども
2	発達の遅れや障がいがある子ども
3	医療的ケアの必要な子ども
4	エピペン(アドレナリン自己注射)を処方された子ども
5	アレルギーのある子ども(4も含む)
6	外国籍家庭
7	経済的に困窮している家庭
8	生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭
9	親が精神的な疾患のある家庭
10	親が障がい者の家庭
11	ひとり親家庭
12	高齢出産の家庭
13	多胎育児家庭
14	若年出産の家庭
15	避難してきた(している)家庭
16	子育てと介護をしている家庭
17	DVあるいはその予備軍の家庭
18	虐待あるいはその予備軍の家庭(ネグレクト・身体への虐待等)
19	転勤・転居してきたばかりの家庭
20	親が妊娠中の家庭
21	ファミサポへ過度に依存する家庭
22	複雑な家族構成の家庭
23	複合的に多くの問題を抱えた家庭
24	提供会員へのハラスメントやパワハラ傾向のある家庭
25	安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭
26	お稽古事や習い事が多すぎる家庭

(問2-2) 上記のような多様な背景をもつ家庭への援助活動を行うことは、ファミサポとして必要だと思いますか。(○は1つ)

1	はい
2	いいえ

### 3. 提供会員の不足について

(問3-1) ファミサポでは全国的に提供会員の不足が課題となっています。なぜ提供会員が不足していると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1	活動に興味がないから
2	時間がないから
3	報酬が安いから
4	手続きが面倒くさいから
5	依頼会員を選べないから
6	アドバイザーのフォローが不十分だから
7	何か問題があったときの責任が重すぎるから
8	活動の危機管理体制が不十分だから
9	サービスの仕組みが複雑で理解しづらいから
10	家族の理解が得られないから
11	同じ地域の人と関わりたくないから
12	研修が負担だから

### 4. あなたご自身のことについて

(問4-1) あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1	30歳未満	4	50歳代
2	30歳代	5	60歳代
3	40歳代	6	70歳代以上

(問4-2) 配偶者の有無についてお答えください。(○は1つ)

1	いる
2	いない

(問4-3) はじめて援助活動を行ってから、何年が経っていますか。(○は1つ)

1	1年未満
2	1年以上3年未満
3	3年以上5年未満
4	5年以上

(問4-4) あなたの現在の働きかたについて、もっとも近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1	無職
2	正社員・正規職員
3	パート・アルバイト(学生アルバイトを含む)・契約・臨時・嘱託

4	派遣社員
5	請負社員
6	自営業主、自由業者
7	家族従業者
8	内職
9	経営者、役員
10	上記以外

(問4-5) 現在保有されている資格はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	保育士
2	幼稚園教諭
3	小・中・高教員免許
4	看護師
5	ホームヘルパー
6	社会福祉士
7	その他( )
8	特になし

質問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて 11月30日(火)までに、女性労働協会へご返送ください(当日消印有効)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員  
の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査  
**依頼会員向け調査票**

《記入にあたってのお願い》

**【調査への同意】**調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなたが不利益を被ることはありません。本調査への回答および用紙の提出によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。

**【個人情報について】**本調査票では、番号によって、アドバイザー調査と、その他の会員調査と紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。また以下の記名は、問い合わせをする場合のみ使用します。本調査で得られた結果及び情報管理については、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。また、以下の返送先に連絡することによって、回答の取りやめを行うこともできます。

**【調査時期】**特にことわりのない限り、令和2年度末(令和3年3月31日現在)の状況についてお答えください。

**【記入方法】**該当する番号に○をつけ、□及び( )に必要事項をご記入ください。

**【返送方法】**ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、11月30日(火)までにポストへ投函してください。

**【本調査についてご質問等の窓口】**

〒105-0014 東京都港区芝2-27-8 VORT芝公園 8F  
一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
TEL:03-3456-4410 FAX:03-3456-4420  
w-women2a@jaaww.or.jp

**【本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口】**

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

※QRコードより回答フォームを使えば、ネット回答できます。



**1. 依頼会員になった理由/相互援助活動についての認識/利用満足度**

(問1-1) あなたが依頼会員になった理由について下記のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が安いから
2	同じ地域の住民が預かってくれるから(地域住民同士の支えあいだから)
3	行政が案内するため信頼できる
4	無償化の対象になったから
5	他に利用できるサービスがないから
6	友人に教えてもらったから
7	子どもを地域とのかかわりの中で育てたいから
8	サービスの仕組みが整っているから

(問1-2) 現在、利用しているファミリー・サポート・センター事業の満足度について下記のあてはまる番号に○をつけてください。

1	満足している	→ 問1-3へ
2	まあまあ満足している	
3	あまり満足していない	→ 問1-4へ
4	満足していない	

(問1-3) 上記で「満足している」、「まあまあ満足している」と回答した理由について下記の当ては

まる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が安い
2	同じ地域の住民が預かってくれる
3	行政が案内するため信頼できる
4	無償化の対象になったこと
5	子どもを地域とのかかわりの中で育てられている
6	提供会員との相性が良い
7	アドバイザーのフォローが行き届いている
8	活動の危機管理体制が十分である
9	サービスの仕組みが整っている
10	同じ地域に知り合いができた

(問1-4) 上記で「あまり満足していない」、「満足していない」と回答した理由について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が高い
2	サービス利用開始までの手続きが多い
3	提供会員を選べない
4	なかなか提供会員とのマッチングができない(時間がかかる)
5	急な対応ができない
6	アドバイザーのフォローが不十分
7	活動の危機管理体制が不十分
8	サービスの仕組みが複雑で理解しづらい
9	提供会員との相性が悪い
10	利用料金の支払い方法
11	近所の目が気になる

## 2. ファミサポ事業を含む類似の子育て支援サービスの利用について

子育て支援サービスについて、利用の有無と、あなたが日頃から利用している優先順位に○をつけてください。

(問2-1) 「子どもの送迎」に関する子育て支援サービスの利用の有無

サービス名	利用の有無	
	1	2
A. ファミリー・サポート・センター事業	1	利用あり
	2	利用なし
B. ベビーシッター	1	利用あり
	2	利用なし
C. 住民参加型在宅福祉サービス(地域の支えあい活動)	1	利用あり
	2	利用なし
D. シルバー人材センターの育児サービス	1	利用あり
	2	利用なし
E. 子育てタクシー	1	利用あり
	2	利用なし

(問2-2) 「子どもの送迎」に関する子育て支援サービスの優先順位

優先順位	1位	2位	3位	4位	5位
サービス名 ※いずれかに○ その他の場合は 直接記入	A, B, C, D, E その他 ( )				

(問2-3)「子どもの預かり」に関する子育て支援サービスの利用の有無

サービス名	利用の有無	
A. ファミリー・サポート・センター事業	1	利用あり
	2	利用なし
B. 保育所・幼稚園・認定こども園等の延長・一時預かり事業	1	利用あり
	2	利用なし
C. ベビーシッター	1	利用あり
	2	利用なし
D. 学童保育	1	利用あり
	2	利用なし
E. 住民参加型在宅福祉サービス（地域の支えあい活動）	1	利用あり
	2	利用なし
F. シルバー人材センターの育児サービス	1	利用あり
	2	利用なし

(問2-4)「子どもの預かり」に関するサービスの優先順位

優先順位	1位	2位	3位	4位	5位
サービス名 ※いずれかに○ その他の場合は 直接「記入	A, B, C, D, E, F その他 ( )				

※住民参加型在宅福祉サービスとは、制度の枠にとらわれず、住民同士がお互いさまの感覚で生活全体を支え合う活動であり、多くが会員制で有償性の仕組みとなっています。

（社会福祉協議会やボランティア団体等が事務局を担っている地域の支えあい活動も含まれます）

### 3. 依頼会員の提供会員への興味・関心について

(問3-1) 今後、あなたが提供会員になりたいと思いますか。下記のあてはまる番号に○をつけてください。

1	とてもなりたい	→ 問3-2へ
2	まあまあなりたい	
3	あまりなりたくない	→ 問3-3へ
4	絶対なりたくない	

(問3-2) 上記で「とてもなりたい」、「まあまあなりたい」と回答した理由について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	活動に興味がある
2	時間がある
3	報酬がある
4	地域に貢献できる
5	依頼会員としてお世話になっているから

6	同じ地域に知り合いができる
7	すでに関係者に依頼されている

(問3-3) 上記で「あまりなりたくない」、「絶対なりたくない」と回答した理由について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	活動に興味がない
2	時間がない
3	報酬が安い
4	手続きが面倒くさい
5	依頼会員を選べない
6	アドバイザーのフォローが不十分
7	何か問題があったときの責任が重すぎる
8	活動の危機管理体制が不十分
9	サービスの仕組みが複雑で理解しづらい
10	家族の理解が得られない
11	同じ地域の人と関わりたくない
12	研修が負担

(問3-4) あなたが「提供会員」になりたい(なってもいい)と思える条件について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	活動に見合った報酬
2	アドバイザーのフォロー体制の充実
3	活動の危機管理体制が整っている
4	充実した研修が受けられる
5	活動場所の提供
6	都合の良い活動時間を選ぶことができる
7	依頼会員を選ぶことができる

#### 4. あなたご自身のことについて

(問4-1) あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1	30歳未満	4	50歳代
2	30歳代	5	60歳代
3	40歳代	6	70歳代以上

(問4-2) 配偶者の有無についてお答えください。(○は1つ)

1	いる
2	いない

(問4-3) あなたのお子さんの人数をお答えください。

お子さんの人数は	合計	人
----------	----	---

(問4-4) あなたのお子さんの生まれた年をお答えください。

1人目	西暦	年	4人目	西暦	年
2人目	西暦	年	5人目	西暦	年
3人目	西暦	年			

6人以上いらっしゃる場合は、ページの余白に引き続きご記入ください。

(問4-5) あなたの現在の働きかたについて、もっとも近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1	無職
2	正社員・正規職員
3	パート・アルバイト (学生アルバイトを含む)・契約・臨時・嘱託
4	派遣社員
5	請負社員
6	自営業主、自由業者
7	家族従業者
8	内職
9	経営者、役員
10	上記以外

(問4-6) ファミサポ事業の利用年数についてお答えください。(○は1つ)

1	1年未満
2	1年以上3年未満
3	3年以上5年未満
4	5年以上

(問4-7) ファミサポ事業の利用内容・利用頻度についてお答えください。

1. 子どもの送迎

1-1	週1回程度
1-2	週2～3回程度
1-3	週4回以上
1-4	月1回程度
1-5	単発的な利用
1-6	子どもの送迎では利用していない

2. 子どもの預かり

2-1	週1回程度
2-2	週2～3回程度
2-3	週4回以上
2-4	月1回程度
2-5	単発的な利用
2-6	子どもの預かりでは利用していない

質問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて 11月30日(火)までに、女性労働協会へご返送ください(当日消印有効)

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)における提供会員  
の確保方策等の取組事例に関する調査研究」アンケート調査  
両方会員向け調査票

《記入にあたってのお願い》

**【調査への同意】**調査への協力は任意であり、協力しなかったことであなたが不利益を被ることはありません。本調査への回答および用紙の提出によって、本研究への協力について同意したこととみなさせていただきます。

**【個人情報について】**本調査票では、番号によって、アドバイザー調査と、その他の会員調査と紐づいており、回答者の所属が、調査分析者に分かる仕組みとなっています。これらの個人情報は、本調査の目的および分析以外には使用しませんし、外部に公表されることもありません。また以下の記名は、問い合わせをする場合のみ使用します。本調査で得られた結果及び情報管理については、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会で定められた基準に従い、適切に処理いたします。また、以下の返送先に連絡することによって、回答の取りやめを行うこともできます。

**【調査時期】**特にことわりのない限り、令和2年度末(令和3年3月31日現在)の状況についてお答えください。

**【記入方法】**該当する番号に○をつけ、□及び( )に必要事項をご記入ください。

**【返送方法】**ご記入後の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、11月30日(火)までにポストへ投函してください。

**【本調査についてご質問等の窓口】**

〒105-0014 東京都港区芝2-27-8 VORT芝公園 8F  
一般財団法人 女性労働協会 担当 小林  
TEL:03-3456-4410 FAX:03-3456-4420  
w-women2a@jaaww.or.jp

**【本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口】**

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

※QRコードより回答フォームを使えば、ネット回答できます。



**1. 両方会員になった理由／相互援助活動についての認識／利用満足度**

(問1-1)あなたが両方会員になった理由について下記のあてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が安いから
2	同じ地域の住民が預かってくれるから(地域住民同士の支えあいだから)
3	行政が案内するため信頼できる
4	無償化の対象になったから
5	他に利用できるサービスがないから
6	友人に教えてもらったから
7	子どもを地域とのかかわりの中で育てたいから
8	サービスの仕組みが整っているから

(問1-2)現在、利用しているファミリー・サポート・センター事業の満足度について下記のあてはまる番号に○をつけてください。

1	満足している	→ 問1-3へ
2	まあまあ満足している	
3	あまり満足していない	→ 問1-4へ
4	満足していない	

(問1-3) 上記で「満足している」、「まあまあ満足している」と回答した理由について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が安い
2	同じ地域の住民が預かってくれる
3	行政が案内するため信頼できる
4	無償化の対象になったこと
5	子どもを地域とのかかわりの中で育てられている
6	提供会員との相性が良い
7	アドバイザーのフォローが行き届いている
8	活動の危機管理体制が十分である
9	サービスの仕組みが整っている
10	同じ地域に知り合いができた

(問1-4) 上記で「あまり満足していない」、「満足していない」と回答した理由について下記の当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	利用料金が高い
2	サービス利用開始までの手続きが多い
3	提供会員を選べない
4	なかなか提供会員とのマッチングができない(時間がかかる)
5	急な対応ができない
6	アドバイザーのフォローが不十分
7	活動の危機管理体制が不十分
8	サービスの仕組みが複雑で理解しづらい
9	提供会員との相性が悪い
10	利用料金の支払い方法
11	近所の目が気になる

## 2. ファミサポ事業を含む類似の子育て支援サービスの利用について

子育て支援サービスについて、利用の有無と、あなたが日頃から利用している優先順位に○をつけてください。

(問2-1) 「子どもの送迎」に関する子育て支援サービスの利用の有無

サービス名	利用の有無	
	1	2
A. ファミリー・サポート・センター事業	1	利用あり
	2	利用なし
B. ベビーシッター	1	利用あり
	2	利用なし
C. 住民参加型在宅福祉サービス(地域の支えあい活動)	1	利用あり
	2	利用なし
D. シルバー人材センターの育児サービス	1	利用あり
	2	利用なし
E. 子育てタクシー	1	利用あり
	2	利用なし

(問2-2) 「子どもの送迎」に関する子育て支援サービスの優先順位

優先順位	1位	2位	3位	4位	5位
サービス名 ※いずれかに○ その他の場合は 直接記入	A, B, C, D, E その他 ( )				

(問2-3) 「子どもの預かり」に関する子育て支援サービスの利用の有無

サービス名	利用の有無	
A. ファミリー・サポート・センター事業	1	利用あり
	2	利用なし
B. 保育所・幼稚園・認定こども園等の延長・一時預かり事業	1	利用あり
	2	利用なし
C. ベビーシッター	1	利用あり
	2	利用なし
D. 学童保育	1	利用あり
	2	利用なし
E. 住民参加型在宅福祉サービス（地域の支えあい活動）	1	利用あり
	2	利用なし
F. シルバー人材センターの育児サービス	1	利用あり
	2	利用なし

(問2-4) 「子どもの預かり」に関するサービスの優先順位

優先順位	1位	2位	3位	4位	5位
サービス名 ※いずれかに○ その他の場合は 直接「記入	A, B, C, D, E, F その他 ( )				

※住民参加型在宅福祉サービスとは、制度の枠にとらわれず、住民同士がお互いさまの感覚で生活全体を支え合う活動であり、多くが会員制で有償性の仕組みとなっています。

（社会福祉協議会やボランティア団体等が事務局を担っている地域の支えあい活動も含まれます）

**3. あなたが両方会員になったことについて**

(問3-1) あなたが「両方会員」になった動機について、以下すべての項目の「あてはまる」～「あてはまらない」で該当する番号1～5に○をつけてください。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえぬ	あまりあてはまらない	あてはまらない
A	楽しそう、子どもが好きだから	1	2	3	4	5
B	困っている人の手助けをしたい、人の役に立ちたいから	1	2	3	4	5
C	多くの人と知り合いたい、新しい人と出合いたいから	1	2	3	4	5
D	活動に対する自分の適性を知りたい・やりたい仕事を見つけないから	1	2	3	4	5
E	地域や社会に恩返しをしたいから	1	2	3	4	5
F	生きがいになるものがほしかったから	1	2	3	4	5

G	子育てに関して、自分と同じような状況に置かれている人の手助けをしたいから	1	2	3	4	5
H	市の公的な事業だから	1	2	3	4	5
I	人と接することや、相手の気持ちや考えを理解する力を身に付けたいから	1	2	3	4	5
J	家族、友人、職場などから評価される、認められるから	1	2	3	4	5
K	持っている資格を活かしたいから	1	2	3	4	5
L	時間に余裕ができたから	1	2	3	4	5
M	収入になるから	1	2	3	4	5
N	地域や社会のことを知りたいから	1	2	3	4	5
O	別居する子どもを通じて育児支援の必要性を感じ、身近で育児支援を行いたいと思ったから	1	2	3	4	5
P	就労へのステップとしたいから	1	2	3	4	5
Q	友人や周りの人に頼まれたから	1	2	3	4	5
R	自分の視野を広げたいから	1	2	3	4	5
S	子育て経験が活かせるから	1	2	3	4	5
T	孫のような存在が身近に欲しかったから	1	2	3	4	5
U	児童虐待や子育ての孤立など、社会問題の解決に役立ちたいから	1	2	3	4	5
V	仕事や活動に必要な知識やスキルを取得したいから	1	2	3	4	5
W	依頼会員としてお世話になっているから	1	2	3	4	5
X	センター関係者（アドバイザー等）に依頼されたから	1	2	3	4	5

(問3-2) ファミサポの両方会員となったことで得たものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	依頼会員に信頼され、やりがいを感じる
2	社会の役に立っていることが実感できる
3	社会参加ができる
4	地域に新しい知り合いができる
5	自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい
6	援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある
7	育児に関する知識や技術を身につけることができる
8	育児の経験を生かすことができる
9	援助費をもらえる
10	特に得たものはない

#### 4. 多様な背景や考えをもった家庭への関りについて

(問4-1) 次に掲げる、多様な背景や考えをもつ家庭への援助活動を行ったことがありますか (あてはまるものすべてに○)。

1	病児・病後の子ども
2	発達の遅れや障がいがある子ども
3	医療的ケアの必要な子ども
4	エピペン (アドレナリン自己注射) を処方された子ども
5	アレルギーのある子ども (4も含む)
6	外国籍家庭
7	経済的に困窮している家庭
8	生活保護受給・市町民税非課税を受けている家庭
9	親が精神的な疾患のある家庭
10	親が障がい者の家庭
11	ひとり親家庭
12	高齢出産の家庭
13	多胎育児家庭
14	若年出産の家庭
15	避難してきた (している) 家庭
16	子育てと介護をしている家庭
17	DV あるいはその予備軍の家庭
18	虐待あるいはその予備軍の家庭 (ネグレクト・身体への虐待等)
19	転勤・転居してきたばかりの家庭
20	親が妊娠中の家庭
21	ファミサポへ過度に依存する家庭
22	複雑な家族構成の家庭
23	複合的に多くの問題を抱えた家庭
24	提供 (両方) 会員へのハラスメントやパワハラ傾向のある家庭
25	安価なベビーシッターや安価なタクシー代わりに頻回利用している家庭
26	お稽古事や習い事が多すぎる家庭

(問4-2) 上記のような多様な背景をもつ家庭への援助活動を行うことは、ファミサポとして必要だと思いますか。(○は1つ)

1	はい
2	いいえ

#### 5. 提供会員の不足について

(問5-1) ファミサポでは全国的に提供会員の不足が課題となっています。なぜ提供会員が不足していると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1	活動に興味がなから
2	時間がないから
3	報酬が安いから
4	手続きが面倒くさいから

5	依頼会員を選べないから
6	アドバイザーのフォローが不十分だから
7	何か問題があったときの責任が重すぎるから
8	活動の危機管理体制が不十分だから
9	サービスの仕組みが複雑で理解しづらいから
10	家族の理解が得られないから
11	同じ地域の人と関わりたくないから
12	研修が負担だから

## 6. あなたご自身のことについて

(問6-1) あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1	30歳未満	4	50歳代
2	30歳代	5	60歳代
3	40歳代	6	70歳代以上

(問6-2) 配偶者の有無についてお答えください。(○は1つ)

1	いる
2	いない

(問6-3) はじめて提供会員として援助活動を行ってから、何年が経っていますか。(○は1つ)

1	1年未満
2	1年以上3年未満
3	3年以上5年未満
4	5年以上

(問6-4) あなたのお子さんの人数をお答えください。

お子さんの人数は 合計 人

(問6-5) あなたのお子さんの生まれた年をお答えください。

1人目	西暦	年	4人目	西暦	年
2人目	西暦	年	5人目	西暦	年
3人目	西暦	年			

6人以上いらっしゃる場合は、ページの余白に引き続きご記入ください。

(問6-6) あなたの現在の働きかたについて、もっとも近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

1	無職
2	正社員・正規職員
3	パート・アルバイト(学生アルバイトを含む)・契約・臨時・嘱託
4	派遣社員
5	請負社員
6	自営業主、自由業者

7	家族従業者
8	内職
9	経営者、役員
10	上記以外

(問6-7) 現在保有されている資格はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1	保育士
2	幼稚園教諭
3	小・中・高教員免許
4	看護師
5	ホームヘルパー
6	社会福祉士
7	その他 ( )
8	特になし

(問6-8) 依頼会員としてのファミサポ事業の利用年数についてお答えください。(○は1つ)

1	1年未満
2	1年以上3年未満
3	3年以上5年未満
4	5年以上

(問6-9) 依頼会員としてのファミサポ事業の利用内容・利用頻度についてお答えください。

1. 子どもの送迎

1-1	週1回程度
1-2	週2～3回程度
1-3	週4回以上
1-4	月1回程度
1-5	単発的な利用
1-6	子どもの送迎では利用していない

2. 子どもの預かり

2-1	週1回程度
2-2	週2～3回程度
2-3	週4回以上
2-4	月1回程度
2-5	単発的な利用
2-6	子どもの預かりでは利用していない

質問は以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は返信用封筒に入れて 11月30日(火)までに、女性労働協会へご返送ください(当日消印有効)

令和3年11月吉日

ファミリー・サポート・センター 各位

一般財団法人 女性労働協会  
会長 岩田 三代

令和3年度 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業  
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における  
提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究

**「ファミリー・サポート・センター ヒアリング調査」に関するご協力のご依頼**

皆様におかれましては、日頃より協会事業にご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

私ども女性労働協会は、このたび、厚生労働省「令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」において、全国のファミリー・サポート・センター様を対象に、標記の通り、調査研究を行うこととなりました。

本調査は、調査票をもとに、**特徴的、効果的な取組を行っているファミリー・サポート・センター10箇所程度（事業規模、地域、実施主体等の異なるセンター）に対するヒアリング**をおこなうものです。具体的な調査の目的や概要、調査内容、調査方法等につきましては、別紙に記載しておりますので、ご参照いただけますようお願い致します。

**地域における子育て支援事業をより一層充実していくための大変貴重な資料となります。**ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

記

（添付資料）

- ・別紙① 「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」ヒアリング調査の概要
- ・別紙② 同意書
- ・別紙③ 同意撤回書

以上

**【お問合せ先】**

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川  
〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8階  
TEL : 03-3456-4410 FAX : 03-3456-4420  
Email : [w-women2a@jaaww.or.jp](mailto:w-women2a@jaaww.or.jp)

調査責任者：日本福祉大学 教育・心理学部  
子ども発達学科 准教授 東内 瑠里子

「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」ヒアリング調査概要

## 1. 本調査研究事業について

私ども女性労働協会は、平成6年のファミリー・サポート・センター事業設立当初から現在に至る四半世紀以上の長きにわたり運営支援を実施し、数多くのセンター様の安心・安全な活動と円滑な業務運営のために尽力いたしております。

本調査研究事業は、全国ファミリー・サポート・センター様を対象に、アンケート調査およびヒアリング調査の実施を通じてファミリー・サポート・センター事業の実態の把握及び課題への対応策を検討し今後の事業の一層の充実を図るため、厚生労働省子ども・子育て支援推進調査事業として計画されたものです。

本研究へのご協力をお願いするために、研究の目的や内容をご説明いたします。下記をお読みいただき、ご理解いただいた上でご協力いただければ幸いです。

この研究は、日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会にて審査を受け、承認を受けております。

## 2. 本研究の目的及び意義

ファミリー・サポート・センター事業において、「提供会員の確保」は全国的な課題であり、個々のセンターで様々な取組が行われてきているところです。しかし、思ったような成果が得られない中、提供会員の高齢化が進み、問題が深刻化しています。また、本事業は、これまで他の子育て支援事業の枠からこぼれ落ちる細かい依頼にも柔軟に対応し他事業を補完する役割も担ってきました。しかし、近年、他の子育て支援事業が充実するにつれ、配慮が必要な家庭への対応等、ボランティアな「地域住民同士の支え合い」の活動範囲を超え、専門性や他機関との連携体制が求められる依頼も少なくありません。

そこで、本研究においては、「地域住民同士の支え合い」である事業の特性を踏まえ、提供会員の確保や配慮の必要な子育て家庭への対応方法等について、アンケート調査（別途実施）やヒアリング調査により、課題に対する根本的な原因解明と適切かつ有効な対応策について検討を行い、今後のファミリー・サポート・センター事業の充実向上に寄与する成果としたいと考えています。

## 3. ヒアリング調査の対象と調査方法

### (1)調査対象として選定された理由

本調査研究事業の検討委員会において、アドバイザーの検討委員の推薦をもとに、提供会員の確保あるいは困難事例への対応について特徴的、効果的な取組を行っているファミリー・サポート・センター10センターを選定させていただきました。

### (2)調査方法

Zoomによるオンライン面接

ZOOM ミーティング ID、パスコードは、別途メールにてお送りさせていただきます。

※ZOOM の入室に関してはパスコードを記載し、プライバシーに配慮した環境で実施するよういたします。

### (3)ヒアリング調査の日程・時間

令和3年11月/12月●日（●曜日） 所要時間：1時間程度

### (4)ヒアリング担当者（予定） 下記調査研究検討委員会より2~3名

東内瑠里子（日本福祉大学）、藤高直之（大正大学）、東根ちよ（大阪府立大学）、小林恭子（一般財団法人 女性労働協会）

### (5)ヒアリング内容

提供会員の確保や困難事例への対応等において、他センターへの参考事例となるような好事例として、特色ある取組の内実をヒアリングし、提供会員の確保のための対策を講じるための課題を抽出するとともにファミリー・サポート・センター事業運営において活用可能な対応策について、事業の特性を踏まえた対応策を整理したいと考えております。

#### <提供会員の確保について>

- ・確保が必要となった背景や課題
- ・確保のために実施した内容、工夫点
- ・結果としてどうなったか
- ・確保を実現できたポイント
- ・今後の確保のための改善点と改善策
- ・ファミリー・サポート・センター事業を行うにあたり、提供会員をどう位置付けているか（会員とのコミュニケーション、会員同士の交流、信頼関係を築くための工夫等）

#### <困難事例への対応について>

- ・困難事例の対応のための体制、連携先
- ・困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点
- ・困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方
- ・ファミサポにおいて配慮が必要な家庭にどう対応していくか

#### <その他>

- ・ヒアリングでお答えいただいた内容から、貴センターの特徴的な取組内容について
- ・ファミサポ事業に求められる支援や事業のあり方について 等

### 4. 本研究事業にかかる個人情報等の取扱いおよび倫理的配慮について

本研究の実施に当たっては、厚生労働省子ども家庭局 保育課 健全育成推進室の許可を得て実施しております。ヒアリング調査の実施にあたりましては貴重なお時間を頂戴しますが、調査の主旨をご理解いただきますようお願いいたします。また、報告書作成のため、ヒアリング実施中に録画・録音等をさせていきたいと考えております。

本調査の参加にご同意いただける場合は、**別紙②の同意書にご署名いただき**、「6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先」に記載の調査担当までファックスまたは同封の返信用封筒にてお送りくださいますようお願い申し上げます。

なお、別紙③の同意撤回書によって、いつでもこれを撤回することができます。撤回によって、あなたさまの不利益になるようなことは一切ありません。

また、ここで得た個人情報に関しては、女性労働協会において厳重に保管し、調査研究報告での公開にあたっては、公開前に許可をいただくとともに、匿名化するなどによって個人情報の保護に努めます。

本研究で得ました情報に関しては、本研究のためだけに使用します。使用後は機密文書として保管し、廃棄をします。研究計画書及び研究の方法に関する資料への情報公開をご希望の方は、女性労働協会へ連絡をいただくと閲覧することができます。

### 5. 本研究事業にかかる情報公開について

ここで得た情報をもとに、アンケート調査票の分析と合わせて、現場で活用可能な対応策の好事例集を作成いたします。好事例集は、女性労働同協会のサイトでの公開を予定しております。また日本子ども家庭福祉学会（案）、日本保育学会（案）などで学会発表、ならびに論文執筆を行う予定です。

### 6. 本調査へのご質問・相談ならびに問い合わせ先

一般財団法人 女性労働協会 担当 小林、吉川、川島

〒105-0014 東京都港区芝 2-27-8 VORT 芝公園 8階

TEL : 03-3456-4410 **FAX : 03-3456-4420** Email : w-women2a@jaaww.or.jp

### 7. 本研究に関する倫理的な苦情等に関する連絡先窓口

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会  
rinri-soudan@ml.n-fukushi.ac.jp

## ヒアリング調査参加の同意書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」ヒアリング調査に関する以上の事項について説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に参加いたします。

日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

参加者（署名） \_\_\_\_\_

## ヒアリング調査参加の同意撤回書

私は、「子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）における提供会員の確保方策等の取組事例に関する調査研究」ヒアリング調査への参加の同意を撤回いたします。

日付： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

参加者（署名） \_\_\_\_\_

ヒアリングシート		実施日：令和 年 月 日 ( ) 時間 : ~ :
<b>&lt;1&gt; センター概要</b> センター名： アドバイザー 氏名： (事前に基本情報を記載) ・運営方法： 設立年： ・会員数 男性： 人 女性： 人 計： 人 (提供会員： 人 依頼会員： 人 両方会員： 人) ・年間活動件数： 件 ・講習会： ・会員の更新： ・利用補助：		調査員：
ヒアリング内容		回答
番号	項目	設問
<b>&lt;2&gt; 提供会員の確保について</b>		
1	確保が必要となった背景や課題	①提供会員が不足していった経緯を教えてください。 ②①に関して、何が問題だったと考えられますか。
2	確保のために実施した内容、工夫点	①提供会員不足を補うためにどのような取り組みを実施されましたか。 ②どのような点を工夫されましたか。 ③上記の取り組み苦勞されたことはありますか。どのように対応しましたか。
3	結果としてどうなったか	①提供会員の数は増加しましたか。(増加の有無) ②どのような良い結果が得られましたか。 ③会員全体への効果はありましたか。(効果の有無) ④どのような影響がありましたか。
4	確保を実現できたポイント	結果を出すために重要となったポイントはどのような点ですか。
5	今後の確保のための改善点と改善策	今後の目標や目指すところ、取り組みたいことはありますか。
6	事業を行うにあたっての提供会員の重要性	会員が安心・安全に活動できるようアドバイザーと会員とのかかわりをどのように考えていますか。 ・理想とする姿 ・会員とのコミュニケーション ・会員同士の交流 ・信頼関係を築くための工夫等
<b>&lt;3&gt; 困難事例への対応</b>		
1	困難事例の対応のための体制、連携先	①関係機関と連携を取っていますか。取っている場合は、どのような機関と連携をとっていますか。 ②連携のために工夫している点はありませんか。
2	困難事例への対応事例と対応にあたって重視した点	①実際に対応した困難事例で適切な対応ができたと思う活動について、可能な範囲で状況をお教えてください。 ②適切な対応を行うためにどのようなことが重要だったと考えていますか。どのような体制や対応をすればうまくできると考えますか。
3	困難事例、配慮が必要な家庭との向き合い方	①困難事例に対して、ファミサポ事業としてどのように考え、また対応をしていけばいいと考えますか。 ②配慮が必要な家庭に対して、ファミサポ事業としてどのように考え、また対応をしていけばいいと考えますか。
<b>&lt;4&gt; 特色ある取組について</b>		
1	特色ある取組について	(ヒアリングしながらセンターとしての特色ある取組について、深掘りして話を聴く。)
<b>&lt;5&gt; ファミサポの事業のあり方について</b>		
1	ファミサポの事業のあり方	これからの地域の子育て支援において、ファミリー・サポート・センター事業はどのような支援が求められ、どのような支援を行っていく必要があると思いますか。事業のあり方についてのお考えをお聞かせください。